



Flash News

三重大学

第87号

目次

- 三重大学がエコ大学ランキング総合1位に選出
- 平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に採択
- 「第17回3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム2010」に参加
- 第10回全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」報告会
- アジア・太平洋大学環境教育コンソーシアムCOP10参画セミナー「キャンパス環境活動から生物多様性保全への展開」
- 自転車盗難防止キャンペーン
- 知的財産表彰授与式
- みえ産学官研究交流フォーラム2010
- 美し国おこし・三重さきもり塾 公開シンポジウム「災害に備えるまちづくり・人づくり」
- 第33回東海地区国立大学法人等契約実務担当者連絡会

ご報告

- ・教育学部附属中学校音楽部から
- ・学生サービsteamから
- ・定型業務等運営・支援センターから
- ・広報室から

三重大学がエコ大学ランキング総合1位に選出

本学は、標記国公立大学部門および全大学総合1位に選出され、日本一のエコ大学として認められました。全国青年環境連盟（エコリーグ）主催による、大学の温暖化対策を後押しするための表彰制度で、今年で2回目となります。本学は、2007年11月、全国初となる全学部同時のISO14001認証を取得し、3R活動、三重大ブランドの環境教育を展開し、2010年6月には、CO₂排出量を2020年までに1990年比で30%削減する、カーボンフリー大学構想を掲げました。「世界一の環境先進大学」に向けて、今後さらなる努力を続けていきます。



平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に採択

文部科学省が公募した標記事業に国立大学法人28大学が決定し、本学も「自他共に成長を目指す幅広い職業人の養成」（取組担当者：中川 正教育担当副学長）が採択されました。本取組は、自他共に成長を目指す社会性と、主体的に学習目標を設定して実践知を獲得する自立性を身につけさせることにより、感性豊かな職業観・社会観涵養に結びつくキャリア教育プログラムと就業支援体制を構築しようとするものです。本学が全学的に展開してきたPBL（問題発見解決型学習）を基盤に、入学から卒業まで、継続的な自己省察と目標設定を行わせるカリキュラム整備を進めるとともに、学内をアカデミックコミュニティ（自立性と社会性を発揮する実践の舞台）として整備し、教職員と学生が協働で全学的学生支援・就職支援体制を構築します。

「第17回3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム2010」に参加



11月9日～12日、タイのチェンマイ大学で開催された標記セミナー&シンポジウムに、本学から5学部・6研究科の学生14名と学長ほか教職員10名が参加しました。この行事は、学生に国際会議での論文発表の機会を提供し、国際交流を深めることを目的に毎年ホスト大学3校（本学、チェンマイ大学、江蘇大学）が順に開催し、今年は6カ国14大学が集まりました。人口、食料、エネルギー、環境のテーマに加えて、コミュニケーション、コミュニティと持続的発展の2つのテーマがホスト大学から提起され、学生全員が各自の専門性に応じたテーマで論文発表、ワークショップ、フィールド研修に出席しました。食料とコミュニケーションのテーマでは、本学の学生が最優秀賞に選ばれました。教員も基調講演、優秀発表の審査などに参加し、盛況のうちに幕を閉じました。

第10回全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」報告会

11月16日、総務部定型業務等運営・支援センターキャンパス環境整備室の職員3名が10月23日～25日にかけて開催された標記スポーツ大会の結果報告を行いました。三重県代表選手の伊藤健太さんは、猛暑のなかでも休まず練習に励み、卓球競技知的障害者青年男子の部で、銀メダルを獲得しました。陸上競技肢体不自由者男子1部に出場した古謝宏二さんは、善戦しましたが、惜しくもメダルには届きませんでした。二人から報告を受けた内田淳正学長は、「三重大学の誇りだ。」と健闘を称えました。



古謝さん

内田学長

伊藤さん

森内さん
(選手団役員)

77・太平洋大学環境教育コンソーシアムCOP10参画セミナー「キャンパス環境活動から生物多様性保全への展開」

10月13日～23日、日本学生支援機構との共催で、標記国際大学交流セミナー（実施責任者：松岡 守理事・副学長、実施担当者：江原 宏学長補佐）を開催しました。本セミナーでは、東77、東南77の協定大学（韓国：梨花女子大学校、世宗大学校、東国大学校、タイ：チェンマイ大学、タサート大学）から招へいた15名の学生・研究者が本学の日本人学生・留学生とともに、生物多様性や環境活動に関する特別講義を受講し、討論やワークショップに参加しました。その上で、COP10会議の見学や77・太平洋大学環境コンソーシアム国際環境フォーラムに参加し、ユネスコ世界遺産紀伊山地の霊場と参詣道の見学や三重県立熊野古道センターにおける地域住民との交流などを行い、生物多様性・環境の保全と持続的な生物資源の利用に関してワールドワイド（発想から地域の保護活動の実態まで）の知識を養いました。



自転車盗難防止キャンペーン

10月19日、生物資源学部前駐輪場を中心に、津警察署主催の標記キャンペーンを実施しました。当日は、学生防犯ボランティア「三重大学安全安心パトロール隊」の21名が揃いのパトロールベストを身に付けて、学生にワイヤ錠とチラシを配付しながら、防犯登録・ツーロックを呼びかけました。「友達の分も」と言って複数受け取る学生もいて、用意されたダンボール1箱分のワイヤ錠は、またたく間に無くなりました。



知的財産表彰授与式

10月27日、学長室で標記表彰式が挙行されました。この表彰は、平成19年度から本学の知的財産活動の向上および教職員等のインセンティブを高めることを目的に行われています。知的財産最優秀出願賞に工学研究科の中村修平教授、知的財産最多届出賞に生物資源学研究科の寺西克倫教授、知的財産管理活用功労賞に榊三重ティールオーの杉山早実氏、知的財産活用賞に工学研究科の畑中重光教授の計4名が受賞しました。



みえ産学官研究交流フォーラム2010

11月5日～6日、四日市ドームにおいて標記フォーラムが開催されました。県内の大学、高専、公設試験場、支援機関が一同に集まり、教育・研究や社会貢献などの取り組みや成果を展示し、地域への情報発信、さらには新しい連携先の発掘を行いました。また、県内最大の産業展である「リーディング産業展みえ」との同時開催も5年目となり、展示やセミナー、合同の企業相談コーナーの企画など、開催効果を高める連携も年々深まってきました。その関係で、今年は知的財産マッチングセミナー（基調講演：狩野幹人助教・知的財産統括室）や「みえ“食発・地域イノベーション”創造拠点」プレオープニングイベント～企業ネットワーク（仮称）のキックオフ会も行われ、2日間で約7,000名の来場者がありました。

美し国おこし・三重さきもり塾 公開シンポジウム「災害に備えるまちづくり・人づくり」

11月7日、津市の三重県教育文化会館において、標記シンポジウムを開催しました。早稲田大学理工学術院の佐藤滋教授、金沢大学大学院の水野雅男教授により、「復興まちづくり」をテーマとした基調講演がありました。引き続き、浅野 聡副塾長の司会のもと、4名のパネリストと基調講演者を交えてのパネルディスカッションを行い、熱心な討論が交わされました。会場は満員となり、参加した152名は興味深く聴き入っていました。

第33回東海地区国立大学法人等契約実務担当者連絡会

11月12日、津市のプラザ洞津で標記連絡会を開催しました。これは毎年東海地区の国立大学法人等の契約部門の係長クラスの担当者が日頃の業務の情報交換等を目的としたもので、本学は当番校として参加しました。当日は、東海地区の16機関から契約関係の実務担当者37名が出席し、本学の宗近誠一郎財務部長が開会の挨拶をし、各機関から提案のあった協議事項について活発な討議を行いました。また、全体会議では、本学の会計全般における取り組み事例を紹介しました。参加者は情報交換を熱心に行い、各機関の交流を深めるなど有意義な会となりました。

ご報告

教育学部附属中学校音楽部から

10月10日、東京のNHKホールで行われた「NHK全国学校音楽コンクール」全国大会に東海地区代表として出場し、「優良賞」を受賞しました。



学生サービスチームから 11月6日～7日、第62回三重大学祭「みえがお」を開催し、今年も多くの人々で賑わいました。

定型業務等運営・支援センターから

キャンパス環境整備室では10月中旬、正門左手広場に芝桜の苗を植えました。4月上旬から開花し中旬には満開となります。

広報室から 11月24日、総合研究棟Ⅱ第2・3会議室で第1回定例記者懇談会を開催しました。

